

福島県にゆかりのあるJICAボランティア

平成23年度 第4次隊 ※紹介欄にあるJOCVとは「青年海外協力隊」、SVとは「シニア海外ボランティア」のことです。

福島県出身者のほか、福島県内で働いた、大学で学んだなど、福島県にゆかりのある方をご紹介します。

■二本松訓練所



JOCV 寺岡 友里
出身地：南相馬市
(現在東京都在住)
派遣予定国：インドネシア
職種：環境教育



JOCV 長沢 絵美
出身地：岩手県
(福島大学卒業)
派遣予定国：モザンビーク
職種：理数科教師



■駒ヶ根訓練所



JOCV 島崎麻衣子
出身地：いわき市
派遣予定国：ボリビア
職種：手工芸



震災では本当に沢山の人の支えていただき感謝しています。訓練所に入所し、幅広い年代の異業種の方々と出会い、色々なことを教わることで毎日とても充実しています。任地でも充実した2年間を過ごしたいです。

※1月6日に派遣前訓練を開始しました。
(二本松訓練所88名、駒ヶ根訓練所96名)

訓練での仲間との出会いも、家族・友人そして二本松市の皆さまの支えがあってこそだと感謝しております。震災で各国・日本各地の「人の力の強さ」を改めて実感しました。これからの活動も多くの人々と共に力を合わせ、笑顔が未来につながる環境を作っていきたいです。

震災後ずっと気になっていた福島に戻ってくるのができて嬉しく思っています。二本松の皆さまの温かさに支えられ、仲間とともに爽やかな訓練生活を送っています。任地の2年間、子どもたちの未来を夢見て私の出来る限りを伝え、残していきたいです。

これからの日本

～世界の中で私たちができること～

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2011

受賞者発表

受賞者の皆さん、学校の皆さんおめでとうございます。

【高校生の部】

審査員特別賞 (最終選考作品)

「放射能と農業」
福島県立あさか開成高等学校 中山 未来

《佳作》

「国際協力を「知る」事」
福島県立白河高等学校 佐藤 佑紀

《特別学校賞》 福島県立あさか開成高等学校

《学校賞》 福島県立白河高等学校

【中学生の部】

受賞名	学校名	氏名	作品タイトル
国内機関長賞	いわき市立勿来第二中学校	瓜生 健悟	福島に生きて
佳作	福島市立清水中学校	黒田 悠太	世界の中の一人として
	福島市立福島第四中学校	鈴木 賛	世界に対する「ふるさと福島」の使命
	福島市立福島第四中学校	但木 花恵	「知りたい」を世界に広げよう
	郡山市立郡山第一中学校	本田 陽美	東日本大震災を経験して
	福島市立飯野中学校	松本 優作	「募金」
	福島市立福島第一中学校	渡辺 千尋	「未来の世界と私」
	ふくしま青年海外協力隊の会長賞	白河市立白河第二中学校	加藤 輝大
	小野町立浮金中学校	藤井 温子	「これからの日本」
	郡山市立郡山第二中学校	横山 桜子	震災を経て

(氏名五十音順)

【中学生の部 学校賞】

学校名
福島市立福島第三中学校
福島市立福島第四中学校
福島市立岳陽中学校
福島市立達来中学校
福島市立北信中学校
福島市立飯野中学校
福島市立松陵中学校
桑折町立釧芳中学校
二本松市立二本松第一中学校
郡山市立郡山第一中学校
郡山市立郡山第二中学校
郡山市立郡山第三中学校
いわき市立平第二中学校
いわき市立中央台南中学校
石川町立沢田中学校
白河市立白河第二中学校
白河市立白河南中学校

《来年的ご応募、お待ちしております。》

■訓練所で体験しよう！ ～JICA ボランティア1日体験 参加者募集～

開催日	5月6日(日)
時間	10:00～14:30
申込み & 問合せ	JICA 二本松 募集・広報担当者 TEL.0243-24-3200 jicanjv-bk@jica.go.jp

※確定情報は、3月上旬以降に JICA 二本松ホームページに掲載しますので、ご確認ください。



■青年海外協力隊 & シニア海外ボランティア 平成24年度 春募集開始！

開催地	開催日	時間	説明会場
福島	4月1日(日)	14:00～16:00	福島市アクティブシニアセンター A.O.Z (アオウゼ) MAX ぶくしま4階 (小活動室1・2)
いわき	4月8日(日)	14:00～16:00	ラトプ いわき産業創造館 6階セミナー室
会津若松	4月15日(日)	14:00～16:00	会津稽古堂 研修室7
郡山	4月22日(日)	14:00～16:00	ビッグアイ 7階大会議室1
二本松	5月6日(日)	15:00～17:00	JICA 二本松

※会津若松会場は、「ぶくしま青年海外協力隊の会」の協力によるボランティアセミナーとして行います。内容は他の会場と同じです。詳細は JICA 二本松のホームページをご覧ください。



JICA 二本松

着任のお知らせ



JICA二本松青年海外協力隊訓練所
業務課 菅生 みどり

12月に本部(東京)の青年海外協力隊事務局から JICA二本松へ参りました。福島は初めての勤務地になります。昨年の東日本大震災により、まだ、復興に時間がかかると思いますが、早く元の自然豊かな福島に戻るよう祈りながら、みなさんと仕事をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

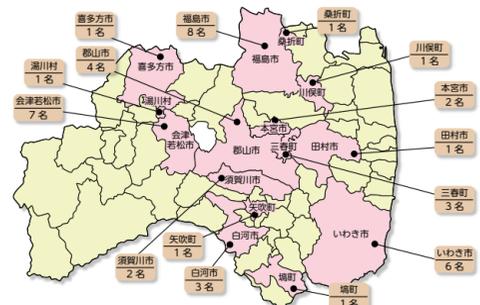
福島県出身 JICA ボランティア 2012年1月25日現在(派遣中)

福島県出身 JICA ボランティア人数 合計派遣中 53名 / 累計 537名

青年海外協力隊員数		日系社会青年ボランティア数	
派遣中	45名	派遣中	0名
累計	494名	累計	9名

シニア海外ボランティア数		日系社会シニアボランティア数	
派遣中	7名	派遣中	1名
累計	30名	累計	4名

※2011年夏号まで「あだたら」の福島県出身 JICA ボランティアの数は、福島出身者と併せて派遣中の在住者も一部含まれていました。2011年秋号からは出生地が福島県であることに統一し人数を記載しております。



独立行政法人国際協力機構 二本松青年海外協力隊訓練所

〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2 TEL.0243-24-3200 FAX.0243-24-3214

募集・広報担当 E-mail : jicanjv@jica.go.jp

JICA 二本松

検索

◆本誌、バックナンバーをご覧になれます...URL <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/newsletter.html>

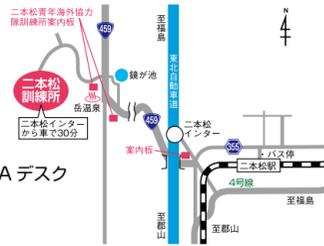
読者の皆様へ

福島県内の小・中・高・大学等、会社、団体で行っている国際協力活動を紙面でご紹介します。情報をお寄せください。

※皆様からのご意見等をお待ちしております。
本誌に関わるご意見・情報の連絡先

国際協力推進員 清海陽子 公益財団法人福島県国際交流協会 JICA デスク
TEL:024-524-1315 FAX:024-521-8308
〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2階
Email:jicadpd-desk-fukushimaken@jica.go.jp

JICA二本松へのアクセス



二本松青年海外協力隊訓練所

2012年冬号 (通算25号) 一季刊年4回発行一

ニュースレター

あだたら



ハノイ国家大学にて日本語を学ぶ学生たちとの交流会

平成23年 教師海外研修 ベトナム国派遣レポート

平成23年度

教師海外研修 ベトナム国派遣



1月3日～8日まで、JICA主催の「教師海外研修」が行われ、福島県内から8名の先生方が参加されました。通常では夏休み期間を利用して行われますが、今年度は震災の影響から、冬休み期間に実施しました。現地ではハノイ市内にある大学や中学校で学生と交流したほか、青年海外協力隊が活動する村落でのホームステイなどを体験しました。今後は各学校で研修の経験を活かした授業や、一般市民に向けた報告会を予定しています。

研修参加者名

五十嵐任志	福島県立郡山萌世高等学校	金澤 一秀	伊達市国見町大枝小学校組合立大枝小学校
石川 加奈	田村市立芦沢小学校	佐藤 雅彦	福島市立鳥川小学校
太田由香里	福島県立勿来高等学校	諸井 元	西郷村立西郷第二中学校
小野 俊彦	福島県立修明高等学校鮫川校	山下 直美	福島県立若松商業高等学校

総括

～ベトナムを訪れて～

研修団長：諸井 元 先生

ベトナムの人々の暮らしから、日本人が忘れていた「強く生きる心や気高さ」「家族との絆を深め伝統を継承していこうとする愛国心」を学ぶことができたと同時に、現代の日本人が抱える課題と教育の果たす役割・責任が益々鮮明になりました。制度や手法の改善等小手先の変革ではなく、明日の日本を担う児童生徒を「教える」ための学校教育の本質的なあり方を、我々教師が真剣に問い質し確立していく時代の到来を痛感した研修でした。



初めてベトナムへ行った先生方へ質問!!

- Q1:ベトナムという国はどのように目に映りましたか?
- Q2:研修に参加して、変わった自分はありませんか?
- Q3:福島の先生方へ、一言お願いします。

小学校の先生からのコメント

金澤 一秀 先生

- Q1 古い物と新しい物がアンバランスに入り交じった。様々な意味で戦後復興期の日本の姿を感じます。
- Q2 「世界の国々と自分たちのつながり」ということを実感するようになりました。日本の中で教育されていること、議論されていることは自己中心的な絵空事が多いということを感じさせられました。世界は広いです。
- Q3 これから世界を背負っていく子供たちを育てていく我々は、もっと世界を知り、グローバルな価値観を持たなくてはならないと思います。みなさん、もっと外の世界に目を向けてみませんか!

石川 加奈 先生

- Q1 急速な経済成長により活気が見られるがそれに伴う課題が山積み。日本とのつながりが多く、身近に感じられる国。
- Q2 ベトナムは、複合的に問題が絡み合っているため、多面的に物事を関係づけて見る目が少しでも養われたかと思えます。国際貢献の大切さを実感することにより国際理解のあり方を見直し、子どもたちの視野を広げさせていきたいという思いが強くなりました。
- Q3 教師が国際理解教育に興味をもって正しく理解することが大切だと実感しました。実際に体感したからこそ伝えられることも多いので学べる場に積極的に参加してよかったと思います。目の前の子どもたちの将来を見据えて、できることから国際理解教育を進めていきましょう。

佐藤 雅彦 先生

- Q1 とにかく若い国。街中に活気があるエネルギーが感じられる。渡航前に想像していたのんびりイメージではなく、あちこちで新興国のパワーを感じました。
- Q2 最大の収穫はベトナムの文化・風習に感じたこと。今まで以上に「見聞・見識をますます広めたい」と思うようになりました。
- Q3 あちこちで福島を応援している雰囲気を感じてきました。そして私たちに必要なことは正しい情報とみんな頑張っているというメッセージの発信だと感じてきました。

小野 俊彦 先生

- Q1 日本がなくなってしまったものが残されている国。(日本が自らを省みることとなる国)
- Q2 自分の関心に、無意識のうちに先進諸国に偏っていたことに気付いたこと。(自分が尽力したいことが明確になったこと等々、たくさん。)
- Q3 このような時だからこそ、「共生」と「持続可能性」を念頭におき、外を見、自らを省みて、世界に貢献しようとする豊かな感性を持った生徒を育てたいですね。

高校の先生からのコメント

五十嵐 任志 先生

- Q1 ベトナム人民のものすごいパワーを感じました。喧嘩のハノイとのんびりと時が流れているドンラム村のギャップをとても有意義に楽しむことができました。
- Q2 参加前以上に国際貢献の大切さを感じました。発展途上国がある国だと思っていた。ホテルでのベルボーイさん、ホームステイ先のおばあさん、学生さんたちの素直な笑顔が一番印象に残っています。
- Q3 世界から注目が集まった「フクシマ」ですが、悲劇的なものは感じられませんでした。ぜひ多くの先生方が多くの途上国へ飛び立ち、自分の目、鼻、耳そして体全体で現地を感じ取って、子供たちに伝えてほしいと思います。そして一人でも多くの教え子が、国際貢献ができればと思います。

山下 直美 先生

- Q1 今の日本では忘れられかけているような人の温かさがある国だと思っています。ホテルでのベルボーイさん、ホームステイ先のおばあさん、学生さんたちの素直な笑顔が一番印象に残っています。
- Q2 日々の生活をもっと真剣に生きたいと考えるようになりませんでした。さまざまな面で日本があれを持たれていると知り、それほど誇りに思ってもらえる何かがあるのか?と思つたため。
- Q3 私たちが興味関心を持ち、自分の世界を広げていくことが子供たちの世界を広げることにつながると思いました。

太田 由香里 先生

- Q1 想像以上にエネルギーが溢れる国でした。バイクに乗って行き交う人々、工業大学で一生懸命技術指導をしている先生方、工業や日本語を勉強する学生、日本語の歌を合唱してくれた中学生、お行儀良く挨拶してくれた小学生、市場で物を売っている人々、すべての人たちが力に溢れているように見えました。
- Q2 ベトナム各地で活躍する協力隊員の方々や日本企業から派遣されている建設現場の方々、JICAベトナム事務所の方々とお会いしました。日本で培った能力や技術力を売って、ベトナムという可能性を秘めた場所で働く姿がまぶしく印象的で刺激を受けました。
- Q3 一歩日本を出ると、視野が広がる出来事が必要とあります。海外研修はどの教科、校種の先生が参加しても意義のある研修だと思えます。

福島県出身 ボランティア現地レポート

アフリカ
ウガンダ
より



JOCV 田中 俊
出身地：福島市
派遣国：ウガンダ
職 種：村落開発普及員



福島県の皆さん、こんにちは。私は村落開発普及員という職種の中の「水の防衛隊」プロジェクトの隊員として、東アフリカのウガンダ共和国に派遣されました。2008年に開催されたTICAD IVでの福田康夫首相(当時)による演説をきっかけとし、「アフリカ諸国を中心に、より多くの人々に安全な水を安定的に届けること」を目的として「水の防衛隊」は誕生しました。

東日本大震災が起きた際、断水が数日続いた「自衛隊の給水車に長蛇の列が出来た」といったニュースを拝見しましたし、家族からも「水の重要さが改めて分かった」という話を聞きました。多くの皆さんが、水は人間の生活に欠くことのできないものだ、と再認識されたことと思います。

残念ながらウガンダでは、この重要な水を得られない地域が多くあります。私の活動するムビジ県では、安全な水へのアクセス率は55%と、ウガンダ国内平均に比べて低い値です。水を得る主な手段は井戸から汲んだ水ですが、故障したまま放置されるケースが多く、住民はしばしば濁った水を使わなければなりません。現地にいる井戸

のメカニックと協力し、修理の支援をすると共に、今後は住民の手で自立的に井戸の維持管理ができるようなお手伝いをしています。

「ブケニャ(私のローカルネーム)のおかげで水が手に入るようになった、ありがとう」という住民の言葉と笑顔を原動力に、今はここウガンダで出来ることに集中し、残りの任期も精一杯頑張っていきます!



朝早くから水汲みをする子どもたち

その思いを行動へ! ユース国際協力ミーティング'11

11月7日、福島市のA・O・Z(アオウゼ)にて高校生を対象とした、「ユース国際協力ミーティング'11」を開催しました。

今回は「JICAボランティアへの理解を深める講座」、「食を通して中南米の文化に触れる講座」、「「貧困」について考える講座」の3つを行いました。



協力隊体験者から派遣された国の現状や文化について話を聞きました。



昼食は中南米の料理「タコス」を食べながら、世界の食文化について学びました。

ふくしまグローバルセミナー2011

毎年12月にJICA二本松で1泊2日のプログラムで行われてきた当セミナーですが、今年は震災の影響から、日帰りでの実施となりました。当日は高校生から一般までの約100名が参加し、国際交流や国際協力、多文化共生などの講座を受けて理解を深めました。

全体講演はいわき市の市民団体「ザ・ピープル」代表の吉田恵美子さんによる「震災を通して見てきたもの～支援する側とされる側～」や、その他の講座の中にも「福島と世界のつながり～東日本大震災・原発事故から～」といったテーマがあるなど、世界とのつながりを考えるプログラムとなりました。



スリランカで幼児教育の経験のある講師からその国の暮らしについて話を聞く参加者

ベナンの小学校内に井戸が完成!!

福島県青年海外協力隊を支援する会による「小さなハートプロジェクト」

終了報告

福島県出身の青年海外協力隊員、羽曾部寛さん
の発案による「井戸建設から公衆衛生へ」を目的とした井戸建設工事が、2011年5月24日に完了しました。建設費用に関しまして、福島県青年海外協力隊を支援する会を通じて、福島県に住む多くの方々からのあたたかいご支援をいただき深く感謝いたします。この井戸設置により学校内教員と児童の飲料水の確保と手洗い習慣の導入が可能となり、衛生環境が大きく改善しました。

(羽曾部さんは平成20年度第1次隊、ベナン共和国で村落開発普及員として活動)
※「小さなハートプロジェクト」とは、協力隊を育てる会が、青年海外協力隊と協力し、開発途上国の現地の人々の生活向上や地域問題解決に必要な資金援助を行う活動です。



グーナン小学校の児童と教員で記念撮影



プロジェクトの中で、手洗い用のポリタンク一式と石鹸を購入